



第73回日本PTA全国研究大会 第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 石川大会

8月22日(金)・23日(土)
石川県内8会場で開催!

大会
スローガン

サステナブルな未来づくりのために
～創造と協働を 石川から～

メイン
テーマ

- 創造的・協働的な学びをつくる PTA 活動を推進します。
- 学びを生かし新たな行動に結び付けていく PTA 活動を推進します。
- サステナブルな環境や地域づくりを働きかける PTA 活動を推進します。

8月22日(金)の分科会では、石川県内の8つの会場に分かれて開催。中でも第3分科会(地域連携)は、令和6年の能登半島地震や豪雨災害で大きな被害を受けた七尾市の「七尾市文化ホール」で開催されました。

翌23日(土)の全体会は、「石川県立音楽堂コンサートホール」以外の7会場ともインターネット回線で結び、参加者全員で私たちのPTA活動の意義を再確認しました。

令和7年8月22日(金)・23日(土)の2日間、金沢市の「石川県立音楽堂コンサートホール」を全体会のメイン会場に、石川県内各地で石川大会が開催されました。災害からの復興の道を歩む石川で、地域コミュニティとの結びつきや「創造」「協働」の大切さを再認識した大会となりました。

〈石川大会が開催された会場〉

会場	分科会・領域
七尾市	七尾市文化ホール 第3分科会(地域連携)
金沢市	金沢歌劇座 第5分科会(広報活動)
	石川県立音楽堂 邦楽ホール 特別第1分科会【日本PTA担当】
	石川県立音楽堂 コンサートホール 特別第2分科会【文部科学省協力】
野々市市	野々市市文化会館 フォルテ 第6分科会(SDGs・ウェルビーイング)
白山市	白山市松任文化会館 ビーノ 第4分科会(人権教育)
小松市	石川県小松市 團十郎芸術劇場 うらら 第1分科会(家庭教育)
加賀市	加賀市文化会館 第2分科会(学校教育)

※全体会は、石川県立音楽堂 コンサートホールをメイン会場に、分科会会場をインターネット回線で結んで開催



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目
5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 太田 敏介
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
<https://www.nippon-ptas.or.jp/>



この二
次元コードを
スマートフォン
などで読
み取っていただきま
すと、日本PTA全国協
議会のホームページに
アクセスできます。

企画編集協力
日本教育新聞社

綱 領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育、家庭教育の充実に務めるとともに、家庭・学校・地域の連携を深め、児童・生徒の健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。

主な内容

1～6面上

- 全国研究大会 石川大会
- 来賓あいさつ
- 実行委員長・会長あいさつ
- 全体会 (記念講演)
- 第1～第6・特別第1・特別第2分科会

6面下～8面上

- 教育課題委員会 各分科会報告

8面下

- 開催予告・全国研究大会奈良大会

第73回日本PTA全国研究大会
第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

石川大会

ご臨席いただいた来賓からのあいさつ

ぜひともご家庭で話し合い 親子での時間を持つて

令和7年度 第73回日本PTA全国研究大会石川大会が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、昨年の能登半島地震及び奥能登豪雨、本年8月の大雨により被災された皆様には、謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧と皆様の安全とご健康を心よりお祈り申し上げます。

さて、本大会の開催にあたり、御尽力いただいた公益社団法人日本PTA全国協議会、東海北陸ブロックPTA協議会、石川県PTA連合会をはじめ、石川県の教育委員会関係の皆様との多大なる御支援によって、全国のPTA関係者が一堂に会し、今日的課題について研究を深める機会を作っていたできましたことに、厚く御礼を申し上げます。

また、御参集の皆様方におかれましては、日頃からPTA活動を通じて、学校・家庭・地域の架け橋として、子供たちの健全育成に御

尽力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

近年、子供たちを取り巻く環境



文部科学省 総合教育政策局長
塩見 みづ枝 氏

度経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果を公表いたしました。保護者に対する調査では、保護者の意識や働きかけが、子供の学習習慣や勉強時間に一定の関係があることや、ゲームやスマートフォン等電子機器の使用時間と家庭におけるルール作りが一定の関係にあることが確認されました。PTAの皆様には、今回の結果も踏まえ、ぜひとも、学校での学びや、電子機器の適切な使用を始め、たくさんの事柄について、ご家庭で話し合い、親子での時間を持つていただきたいと考えております。

また、文部科学省では、学校運営協議会制度と地域学校協働活動

災害に遭っても学びを止めない 教育活動の取り組みを進めてきた

おはようございます。お元気ですか。ようこそ石川県に来ていただきありがとうございます。またこの大会の実行委員長である宇田さんには、大変な気を配って準備をいただいていたと聞いております。

さて、今日この後、石川県の浅野大介副知事の講演と聞いております。実は、彼は私が10年ほど前、文部科学大臣を拝命した頃から、経済産業省の教育サービス課長という立場でプログラミング教育、

そして、GIGAスクール構想など、教育にICTの技術を導入しようとして、わたくしとコンビを組んで取り組んでいた仲間であります。それから10年経ちました。

能登半島での大規模災害、地震と豪雨災害に見舞われました。義務教育の現場も大変な状況です。学びを止めないということで、タブレットを使った、学習支援とか、成績評価の支援とか、日常の教育活動の取り組みを進めてきました。彼は私にとっての同士でもあり



石川県知事
馳 浩 氏

ます。

PTAの皆さん方におかれましては、今回のテーマにある「サステナブル」、どんな状況であっても学びを止めない、持続可能な社会において、いかに教育の現場が重要な役割を果たすのか、GIGAスクールという、機械ばかり使っていて、画面ばかり見ているのかという印象もある中で、不登校の

の一体的取組の推進など、地域の実情に応じて学校・家庭・地域の連携を深めていただく取組を推進しています。

PTAの皆様には、学校・家庭・地域を繋ぐ中心的存在となり、家庭での話し合いを促す取組等各地域の実情に応じたPTA活動を通じて、子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本大会のご盛会並びに公益社団法人日本PTA全国協議会のますますの御発展、皆様の一層の御活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

児童生徒に対する支援も含めて、また評価も含めて、タブレットを使ってできることはタブレットを使い、タブレットを使ってできないことこそ学校教育でしっかりやりましようという方針をご理解いただければありがたいと思っております。

石川県は、今年は復興元年でありまして、何としても復活しようとして、県民挙げて努力しておりますが、皆様のご支援があればこそ一日一日を歩めております。多くのご支援に感謝を申し上げます。歓迎の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございます。

実行委員長あいさつ

皆さま、おはようございます。全国より石川にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。前回の石川大会は1971年でしたので、実に54年ぶりの開催となります。

私は、第73回日本PTA全国研究大会石川大会の実行委員長を務めております。宇田直人と申します。一番下の息子が中学校3年生ですので、私にとっては最後の全国大会になります。

本日はご来賓として、文部科学省塩見みづ枝様、石川県知事馳浩様をはじめ、多くの皆さまにご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃よりご指導を頂戴いたしておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、昨日、本日本と全国大会を開催いたしました。皆さま大いに学び、楽しんでいただいておりますでしょうか。ここに至るまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。ご存知のように、昨年の元日には令和6年能登半島地震が発生、9月には豪雨災害が発生、大変大きな被害が相次ぎました。

今月に入っても線状降水帯が発生するなど、大きな被害が出ております。そのような中、子供の日常を取り戻し、学びの環境を確保するために、行政や関係機関と力を合わせて、PTA活動を進めてまいりました。その際に私たちの背



石川大会実行委員会
宇田 直人 委員長

中を押してくださったのは、皆さまからの多くの励まし言葉と支援金でした。

その支援金は集団避難を余儀なくされた中学生にリフレッシュしてもらうために、映画に招待したり、北陸新幹線の試乗会を実施したり、

会長あいさつ

皆さま、おはようございます。第73回日本PTA全国研究大会石川大会の全体会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず本日、文部科学省総合教育政策局長塩見みづ枝様、石川県知事馳浩様をはじめ、ご来賓の皆さまにご出席を賜りましたことに心から感謝を申し上げます。また、全国からお集まりいただきましたPTAの仲間の皆さま、サテライト会場の皆さま、全国大会石川大会へのご参加、心から感謝と歓迎を申し上げます。合わせて、日頃よりPTA活動を全国各地で推進していただいておりますことに心からの敬意を申し上げます。さて、ここ石川では令和6年元

また被災した先生方の居住スペースの設置や、修学旅行のバス代金の支援等、さまざまなことに活用させていただきました。

できる範囲での全国大会開催となりましたが、開催を決意した時に、改めてテーマも考え直し「サステナブルな未来づくりのために」創造と協働を石川から」とさせていただきました。持続可能な未来を描くための学びを、ここ石川でアップデートしてもらいたいという思いを込めました。また、「サステナブル」にはもう一つの願いも込めております。PTA活動、そしてこの全国大会も持続



公益社団法人 日本PTA全国協議会
太田 敬介 会長

日に震災が発生し、同年9月に豪雨災害が起こりました。今なお、不自由な生活を送っている方々がおられます。お亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての皆さまにお見舞いを申し上げます。

そういう状況の中、ここ石川では、全国大会の準備が進んでまいりました。途中、準備が滞ってしまった期間もあったと伺っており

可能なものになるようにと、さまざまな工夫に取り組みしました。例えば、参加証や資料のデジタル化、全体会も各分科会会場をインターネット回線でつなぎ、バーチャル全体会として開催しております。

せっかく石川に来て学ぶのですから、ここ石川でしか学べない分科会を準備しました。特に「PTAの存在意義」や「防災」については、喫緊のテーマとして設定しました。先ほどご覧いただいた金沢子どもはしご登り教室は、消火・防火活動の原型です。後ほど浅野副知事にお話しただく記念講演も「能登の創造的復興と学びの環

ますし、当初の計画を変更せざるを得ない状況もたくさんあったと思います。こういう状況の中で、PTAの全国大会を開催すべきだろうか、と言った意見も数多く寄せられたのではないのでしょうか。

しかし、こうして今日、全国大会は開催されております。そこには、石川の皆さまのこういう経験をしたからこそ、全国大会を開催する意義があり、全国の皆さまに石川から伝えたいメッセージがある、という溢れ出るような熱い思いを、私は感じ取っております。

ぜひ、全国の皆さまにこの石川の思いが伝わることを切に願っております。そして、皆さまが感じ取れたことをそれぞれの地元を持ち帰っていただき、さらに一人でも多くの皆さまに伝えていただけないでしょうか。そしてそれは、

境々学習環境の魅力化あってこそ「復興」をテーマに、お話ししたいことになっております。

結びとなりますが、この全国研究大会石川大会にご尽力いただきました全ての皆さまに感謝を申し上げますとともに、私たちPTAこそが、子供たちのために、何でもできる一番の組織であり、一番の活動だということを申し上げまして、私たちの挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

私たちが普段行っているこのPTA活動の原点を見直すということにもつながって行くと思っております。

結びにあたり、多くの困難と葛藤を抱えながら、この全国大会の準備を進めてきてくださいました石川県PTA連合会、並びに、宇田実行委員長をはじめ実行委員会の皆さまに、心からの感謝と敬意を申し上げます。またお支えいただきました文部科学省、石川県、石川県教育委員会、東海北陸ブロックの皆さま、その他関係の皆さまに心から感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日も最後まで、どうぞよろしくお願いいたします。

全体会（記念講演）

講演の要約「石川県・浅野副知事」

「GIGAスクール」の実現に向けて

経産省勤務時代に、のちのGIGAスクール構想につながった「未来の教室」実証事業を進めた。経産省が所管する教育産業やスポーツ産業などの「民間教育」と、文科省が所管する「学校教育」をデジタルで融合させると、学びのイノベーションが起こるはずという確信のもと、始めたもの。学びの「探究化・STEAM化」と「自律化・個別最適化」を実現するツールとして、当時の安倍政権の政策として一人1台端末配備を国が進めることにつながった。

教育のDXとは

教育のDXとは、「学ぶ手段の組合わせを自在にすること」。今の親世代の働き方はすでにそうになっている。子供の将来を考えれば、「先生が知識を放り込んでくれる学校」ではなく、「自分でプランをもってトレーニングする習慣をつける学校」が求められる。その環境を整備する必要がある。



石川県副知事
浅野 大介 氏

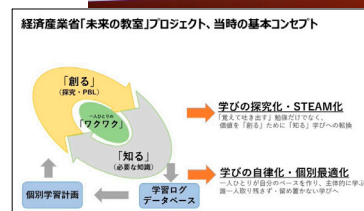
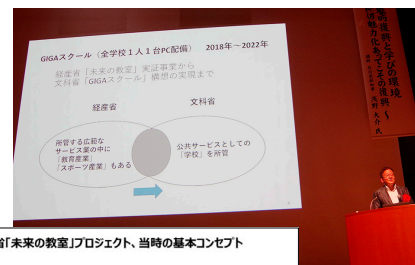
能登の創造的復興と学びの環境 ～学習環境の魅力化あってこそその復興～

※「珠洲ホースパークや能登牧場」「製炭工場」「電力・水のオフグリッド集落」をもとにした、教科横断の探究学習ケースも示された。

GIGAスクール環境が「協働的な学び」の充実を加速させている。特に小学校の変化は大きい。ただ「個別最適な学び」は、学校現場がまだイメージできていないが、パソコンの操作は非常に慣れている。大きな課題として、奥能登の5つの高校の存続があるが、金沢や県外から「あえて奥能登の高校で学びたい」と思わせる魅力ある学校づくりができるかだ。能登の風土は極めて魅力的な学習素材。総合学習や探究学習の素材を、PTAのみなさんと一緒に探すことができれば、学校とPTAという関係がさらに意味を増すはず。

副知事として
石川に赴任してきて

※「創る」と「知る」を循環させる授業、「学びの個別最適化」を目指した自由進度学習の事例紹介も示された。



分科会

〈領域〉学校教育

〈出演者〉 島谷 千春 氏（前加賀市教育長）
工藤 勇一 氏（教育アドバイザー）
寺西 望 氏（加賀市教育委員会教育推進プロジェクトマネージャー）
松本 向貴 氏（加賀市教育長）
松田 小百合 氏（加賀市立山代小学校 PTA 会長）

パネルディスカッションで
見解を述べる工藤氏
（右から4人目）

子供の豊かな学びを
実現するために

～創造と協働のある学びをサポートする～

加賀市学校教育ビジョンの理念と実践報告に、工藤氏の講演を絡めながら協議が進められた。豊かな学びとは、どういう子供に育っているほしいか、そのための教育のあり方とは、学校・保護者にできること等について、「自立性」と「当事者性」をキーワードにして、参加者は学びを深めた。

基調講演者の佐藤氏は「わがまま」を「子供が素直に自分の思いを表現すること」とし、子供の問題行動、不登校の背景について丁寧に語られた。出演者各氏の経験談も相俟って、家庭が安心して過ごせる居場所であること、子供の気持ちを言葉にして受け止めることの大切さを改めて考える時間となった。

第1
分科会

子供の意欲を高める家庭教育

～子供は家でこそわがままであれ～

〈領域〉家庭教育

〈出演者〉 佐藤 健司 氏（法務少年支援センター仙台所長）
米原 由紀子 氏（とやまアナウンスアカデミー講師）
後藤 豊郎 氏（前日本 PTA 全国協議会会長）
横山 えり 氏（札幌市八条中学校 PTA 会長）
下木 良子 氏（公認心理師 特別支援教育士 臨床発達心理士）

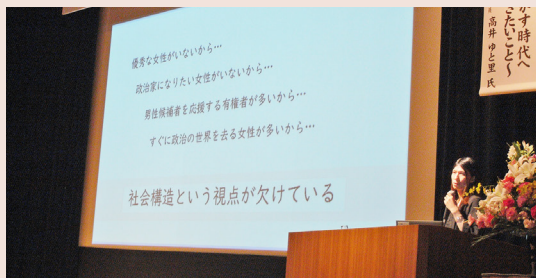
家庭教育の重要性について
パネルディスカッションを実施



〈領域〉人権教育

〈出演者〉高井 ゆと里 氏（群馬大学情報学部准教授）
 山本 恵史 氏（元白山市 PTA 連合会会長）
 植田 幸代 氏（助産師・公認心理師 菜の花助産院院長）
 松本 ハル 氏（青森レインボーパレード実行委員）
 松岡 成子 氏（特定非営利活動法人「ASTA」共同代表理事）

基調講演で社会構造に
目をつけるべきと語る高井氏

第4
分科会多様性の社会
子供の個性を活かす時代へ

～ジェンダー教育について知っておきたいこと～

基調講演者の高井氏は、単に差別をなくすだけではなく、社会の構造そのものに目を向けることの重要性を指摘し、ジェンダーやLGBTQをめぐる具体的な課題へと議論が進んだ。

植田氏の実践発表や、「ジェンダー課題を次の世代に残さないために」をテーマとしたパネルディスカッションを通して、一人一人の個性を尊重し合う社会の在り方を改めて考える場となった。

〈領域〉今日的課題（SDGs・ウェルビーイング）

〈出演者〉平本 督太郎 氏（金沢工業大学 SDGs 推進センター所長）
 新田 英理子 氏（SDGs 市民社会ネットワーク理事・事務局長）
 坂江 裕美 氏（ミネルパジャパン代表）
 浦山 利博 氏（前川崎市 PTA 連絡協議会会長）
 中教 陽平 氏（野々市市立館野小学校 PTA）

野々市市内の小中学校での
実践について発表をした中教氏

第6
分科会質の高い教育環境を
整えるために

～PTA が今できること～

SDGsやウェルビーイングの視点から、子供と大人（保護者・教員）の学びのあり方を探った。

大人が子供の味方となり、ともに楽しみながら古い常識を更新していく姿勢の大切さを、基調講演者の平本氏をはじめ、出演者各氏より熱く語られた。また、オンラインを活用して参加者同士がつながる取り組みも行われ、新しい学びの形を体感する分科会となった。

輪島市教育委員会教育長・小川氏の基調講演、七尾市の平野氏の令和6年能登半島地震当時の話を受け、熊本の友村氏、福島の出川氏を交えて、学校を含む地域共同体が日常的に取り組むべき備えと心構えについて協議した。

出演者のみなさんのリアルな体験談を通して、改めて日頃からの備えが大切であることを実感する機会となった。

第3
分科会災害を通して得られた
教訓を生かす

～後悔のない備えを 地域の力で～

〈領域〉地域連携

〈出演者〉小川 正 氏（輪島市教育長）
 高城 みさ 氏（日本 PTA 全国協議会理事）
 平野 正樹 氏（元七尾市 PTA 連合会副会長）
 友村 幸雅 氏（熊本市 PTA 協議会会長）
 出川 正人 氏（福島県 PTA 連合会副会長）

平野氏（左から2人目）が
能登半島地震の際の経験を話す



学校・PTA・地域がどう連携して未来をつくるかについて、第1部では学校現場の実情を踏まえた連携の重要性を、第2部では仲間を集める新しい仕組みと心構えを、第3部では大谷氏の示唆を踏まえ情報発信と広報のあり方を議論した。

出演者それぞれの言葉から、楽しさと温かさで満ちたPTA活動の可能性を共有し、前向きな学びと共感を広げることができた。

第5
分科会学校が楽しくなる！
仲間が集まる広報活動

～一緒に新しいカギを手に入れよう～

〈領域〉広報活動

〈出演者〉的場 茂樹 氏（金沢学院大学准教授）
 阿部 雄介 氏（岐阜県 PTA 連合会会長）
 大谷 イビサ 氏（角川アスキー総合研究所 TECH.ASCII.jp 編集長）
 相羽 大輔 氏（前金沢市 PTA 協議会会長）

大会テーマについて
見解を述べる金沢市の村山市長



〈領域〉今日的課題（文部科学省協力）

〈出演者〉木下 史子 氏（文部科学省安全教育調査官）
猿渡 智衛 氏（文部科学省 CS マスター）
国崎 信江 氏（危機管理アドバイザー）
大谷 敬一郎 氏（兵庫県 PTA 協議会会計理事）

児童・生徒への
「防災を通じた教育」について
話す木下氏



特別第2
分科会

学校教育における防災の学び

～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から
得られた教訓をどう生かしていくか～

木下氏の基調講演、
国崎氏、大谷氏、猿渡
氏の実践を踏まえた話
を通して、学校・地域
コミュニティの力を再
確認し、実装へつなげ
ることを目的として協
議を深めた。木下氏は、
学校教育における防災
の学びについてお話し
され、子供の防災力を
信じることで、保護者が
助かることも同じくら
い大切、家庭こそ防災
の出発点として、備え
を「日常化（フェーズ
フリー）」する発想が大
切であると話された。

太田敬介会長もパネ
リストとして参加し、
PTA活動の意義はど
こにあるのか、東川氏
の基調講演、南野氏の
単Pでの活動報告、金
子氏の教育行政と学校
側の視点からの話等
を通して、PTA活動の
本質や今後のあり方
を多角的に見つめ直
した。

サステナブルな PTA活動を
構築するために

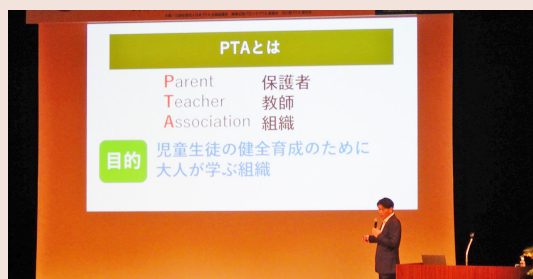
～今、改めて、PTAの存在意義を問う～

特別第1
分科会

〈領域〉今日的課題（日本 PTA 担当）

〈出演者〉東川 勝哉 氏（元日本 PTA 全国協議会会長）
太田 敬介 氏（日本 PTA 全国協議会会長）
金子 俊一 氏（石川県教員総合研修センター所長）
南野 弘一 氏（前金沢市立城南中学校 PTA 会長）

基調講演で PTA の歴史と
存在意義について話す東川氏



委員会報告

「教育課題委員会」
各分科会

PTA課題分科会

全国のPTA課題の
「見える化」を推進

PTA課題分科会（教育課題委員会）は、
令和6年度の活動報告を取りまとめまし
た。全国のPTAが抱える多様な課題を
「見える化」し、共有できるデータベース
の構築を進めています。

PTA活動には地域や学校によって異
なる課題や悩みが存在し、それが明確に
認識されていないケースも多く、情報の
整理や共有が難しい現状がありました。
そこで分科会では、各地の協議会が保有
する情報をクラウド上（Google
Drive）で一元管理し、誰でも活用
できる体制づくりを進めています。

令和5年度には全国の協議会を対象に
アンケートを実施し、「抱える課題」や「提



令和6年度の分科会の活動報告を実施

2025年5月15日（木）に開催されました
協議会代表者会において、各委員会からの活動
報告が行われました。その中から「教育課題委
員会」の各分科会より、全国の皆様にぜひ知っ
ていただきたい内容をご案内いたします。



代表者会での活動報告の様子

供可能な情報」の把握を行いました。令
和6年度には、広報・研究大会・入退会
問題などのカテゴリ別に資料を整理し、
共有用のデータベースを完成させました。
また、「フェスと組み合わせたPTA活
動」など、先進的な事例の蓄積も進めて
おり、今後は協議会間のマッチングや、
より効果的な活動のヒントとしての活用
が期待されています。
今後引き続きデータの充実を図り、
将来的には「PTAのGoogle先生」
のような情報基盤の実現を目指してい
ります。

地域連携分科会

学校と地域が一緒に子どもを育てる
「学校運営協議会（CS）」の
役割をご存じですか？

地域連携分科会では、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール：CS）」の役割や課題について学びを深めています。

CSとは、保護者や地域の皆さんが学校運営に関わり、子供たちを地域ぐるみで育てていくための仕組みです。CSには以下のような重要な役割があります。

・校長が作成した学校運営の基本方針を「承認」する

・教育委員会や校長に対して「意見」を述べる

・教職員の任用に関して「意見」を述べる
このように、CSは単なる地域団体ではなく、法的権限をもった組織です。しかしながら、現時点では「CSとは何か」が十分に認識されていないケースも多く、



分科会での報告の様子



分科会委員の皆さん

会議自体が目的化してしまっている場合や、地域との連携がうまく進んでいない学校も見受けられます。

さらに、都市部と地方では進捗にも差があり、学校側の受け入れ体制が整っていないという課題もあります。

こうした現状を踏まえ、課題解決に向けて、分科会では左記のような提案を行っています。

・CSの目的と役割について、委員全体での理解を深める

・PTA・自治会・地域企業など多様な関係者がCSに参画する

・地域の祭り、防災訓練、職業体験など、双方にメリットのある活動から取り組む可能であれば、各校に「CSコーディネーター」を配置する

そして何よりも重要なのは、保護者と教職員の円滑なコミュニケーションです。PTAの力も不可欠です。CSの意義を理解し、地域と協力しながら、子供たちが安心して学べる、より活気ある学校づくりを目指してまいります。

こども課題分科会

『できていないことをどうするか』も大切ですが、『できることをもっとできるようにする』ことが全国組織の存在意義とも言えるのではないのでしょうか

こども課題分科会は令和5年度のこども課題委員会からの引き継ぎを受け、主に「不登校」についての学びを深めてきました。学びの多様な学校の早期設置、インクルーシブ教育の定員の見直しなど、国への要望書作成も目指してきましたが、全国各地にいる委員が、7月の分科会発足から5月の報告会までの実質10ヶ月で国に声を届けるのには時間が無すぎます。



「なかりスト」を掲げる代表者の皆さん

私たちが委員の声を、理事の方々から国に届けて欲しいとお願いすることで今年度の活動が終わってしまいました。

「何か他にできることはないか」「全国から参集している代表者をお持ち帰りいただける情報は無いか」と考え、分科会として「こども課題」と向き合うきっかけとなる情報共有に取り組みました。不登校支援団体C・P・P・Aの皆さんが自費で作成されている「な



「レイの失踪」を使って闇バイトを体験

かまりスト」。LINEで簡単に診断ができる「学校休んだほうがいいよチェックリスト」。授業や家庭教師がオンラインで可能になる「キズキ教育塾」などです。一個人が全国各地の活動を全て知るのには不可能です。ですが私たちが持ち寄ることが一人で多くの方に共有することが容易になります。結果、不登校のお子さんがあるご家庭のお役に立てれば、それが全国組織への理解につながるのではないのでしょうか。

5月の委員会では株式会社 Classroom Adventure 竹ノ内氏、石川氏にご協力をいただき、闇バイト対策アプリを体験させていただきました。代表者会では、パンフレットを配布しお持ち帰りいただきました。その後、地元の研修会でも導入を検討されている協議会があると聞いています。また、和歌山県PTA連合会の本松会長がPTA会長を務める中学校でも、3学期に実施することが決まりました。こども課題Ⅱ子育ての課題です。様々な課題があると思いますが、地域に根ざした組織を活用して解決できることもあると思います。私たちの日々の活動がPTAの存在意義を支えるものになればと願っております。

学校課題分科会

教職員の働き方改革にPTAが連携支援

「大人が子どもと向き合う時間を増やすために」

教職員の現状と改革の必要性

近年、教職員の長時間労働が社会的な課題となっており、業務の多様化、人員不足、保護者や地域からの期待の高まりなどが背景にあります。授業以外にも部活動、生徒指導、事務作業など多岐にわたる業務が教員の負担を増やしており、特に地方や特定教科では教員不足が深刻化しています。

政府は教員の平均残業時間（月47時間）を2029年度までに30時間へ削減する目標を掲げ、文部科学省は教職調整額の改善や支援スタッフの充実など、処遇改善策を進めています。

全国で進む改革の取り組み

各自治体では、電話対応の自動化、校務のデジタル化、部活動の地域移行、外部人材の活用など、具体的な改革が進められており、さらに次期学習指導要領の改訂に向けて、教員の専門性を発揮できる環境整備や研修時間の確保、業務の精選と分担の明確化が検討されています。



教育課題委員会が配布するチラシ

PTAの参画と協働の広がり

分科会が実施したアンケートによると、約65%の地方協議会が働き方改革に関する事業や研修を実施しており、約9割の協議会役員に教職員が就任しています。PTAと教職員の協働体制が広がる中、保護者と学校の相互理解を深める取り組みが各地で行われています。

具体的には、研修会で教職員の一日の業務を紹介したり、懇談会やオンライン会議を通じて地域の課題を共有したりするなど、保護者が教職員の働き方を理解する機会が増えています。保護者にとつてのメリット

働き方改革によって、教職員が教材研究や授業準備に十分な時間を確保できるようになれば、教育の質の向上が期待できます。教職員が心身ともに健康であることで、子どもたちへの丁寧な指導が可能となり、家庭と学校の連携も強化され、結果として、学校運営への信頼感も高まります。

今後の展望

今後は、ICTの活用による業務効率化、外部人材の導入、部活動の地域移行などがさらに推進される見込みです。教職員が専門性を発揮できる環境づくりが求められており、PTAがその実現に向けたきっかけをつくる橋渡し役を担ってまいります。

* * * * *

子供たちの健やかな成長のためには、家庭・学校・地域の連携が欠かせません。

今回の分科会報告が、各地での取り組みのヒントや後押しとなれば幸いです。

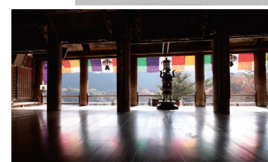
今後とも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第74回日本PTA全国研究大会
第52回日本PTA近畿ブロック研究大会

奈良大会

建国の地 大和からの発信
コンヴィヴィアリティな「わ」
～挑戦するなら今しかない～

いざ奈良へ!!



開催日

分科会：2026年8月21日（金）〈会場〉橿原市、大和高田市、生駒市など、奈良県内各所
全体会：2026年8月22日（土）〈会場〉天理市 天理大学内第一体育館

「今、子どもたちの未来のために、私たち大人ができることは何か。そんな問いを胸に、奈良大会の準備が動き出しました。子どもたちの未来を、本気で守りたい。」

今こそ、私たちPTAが一丸となって動き出すときです。

歴史の風が吹く奈良の地から、全国へ――

多様性を認め合い、支え合い、響き合う「コンヴィヴィアリティな『わ』」を届けたい。

分科会も全体会も、それぞれの会でそれぞれの「わ」を探り、内容を練り上げている真『最中』！

前例にとらわれず、新しい挑戦を続けながら、「今だからこその大会」を目指します。

橿原市にある、橿原神宮は「日本建国の地」とされ、神武天皇を祀っています。また、桜井市にある大神神社は「日本最古の神社」として知られています。

他にも有名な奈良の大仏や、平城京跡、法隆寺などの歴史的建造物、また飛鳥や吉野など、自然豊かな場所も見所のひとつです。奈良は歴史溢れる日本始まりの地。

万葉の息吹を感じるこの地で、心も身体もリセットされるような時間を過ごしてみませんか？ 古都奈良に触れ、心を整え、語り合いましょ。

「挑戦するなら今しかない！」胸を張って、未来へ踏み出すその一歩を、ここ奈良から。皆様のご参加をお待ちしております。

――いざ奈良へ――